

刈谷市 歴史 博物館 NEWS

Vol.02
2019.11

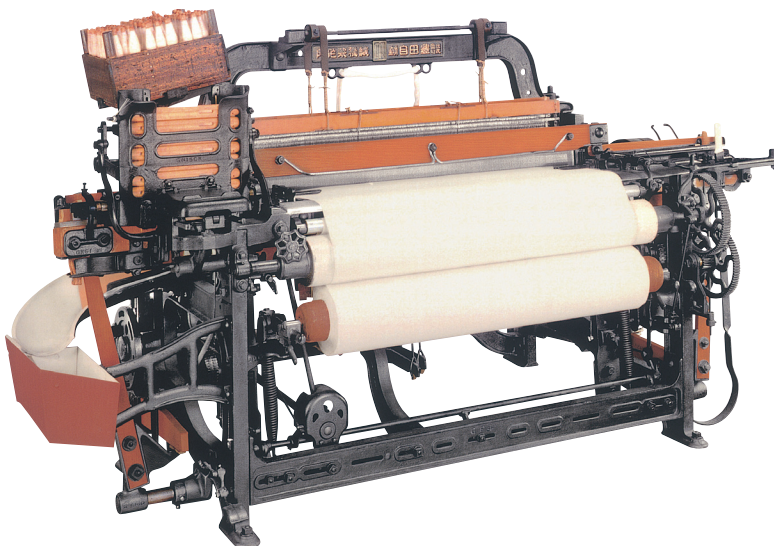
Kariya city Museum of History NEWS

C O N T E N T S

資料紹介 ----- p.2

Report(展示報告) ----- p.3

NEXT Exhibition(次回展示) ----- p.4



Topic

ひがえ 無停止杼換式 豊田自動織機(G型)

(トヨタ産業技術記念館蔵)

無停止杼換式豊田自動織機（G型）は、さまざまな織機を開発した豊田佐吉の発明の集大成といえるものです。G型自動織機には、50余件もの発明がちりばめられ、従来の織機の機能を飛躍的に上回る大変優れた発明でした。実用化には佐吉のみならず、長男喜一郎をはじめとした多くの人々の協力がありました。喜一郎はG型自動織機の量産化に成功し、その収益金や英国プラット社への特許権譲渡金の一部をもとに、自動車事業へと乗り出していくのです。

本資料は、企画展「刈谷の近代化と豊田佐吉・喜一郎」にて展示いたします。この機会にぜひ歴史博物館へ足をお運びください。

資料紹介 中条遺跡出土の中世陶磁器について

令和元年9月7日(土)～11月4日(月・祝)に開催した「発掘された中条遺跡」展では、刈谷市重原本町に位置する中条遺跡から出土した原始から近世にかけての遺物の展示を行いました。

中条遺跡では、平成9～12年(1997～2000)の4年間の調査で、各時代における大量の土器、陶器が出土していますが、今回は中世陶磁器について紹介します。

中条遺跡の中世は、重原荘に該当し、12世紀末に重原氏が荘官となって居館を構えたことから始まります。

中世は、一般的に南北朝時代(14世紀半ば)を境として中世前半(鎌倉時代)と中世後半(室町・戦国時代)に分けられますが、中条遺跡の中世前半では山茶碗や常滑窯製品、中世後半では古瀬戸製品が多く出土しています。

中世前半のようす

中世前半に多く出土する山茶碗は、尾張型山茶碗が最も多く出土していますが、それ以外にも東濃型、渥美・湖西型も出土しています。

尾張型山茶碗は、第6型式期(13世紀前半)が多く出土しており、猿投窯が最も盛んに山茶碗を生産していた時期にあたるため、中条遺跡に多くの山茶碗が供給されていたことが分かります。



尾張型山茶碗 第6型式期

中世後半のようす

中世後半では古瀬戸製品が多く出土していますが、中でも天目茶碗が最も多く出土しています。中でも、下記の写真の天目茶碗は全く欠けがなく、完全な形で残存しています。時期は、古瀬戸IV期古段階(15世紀中葉)のもので、その時期の中条遺跡において、お茶をたしなむ文化があったと考えられます。



天目茶碗 古瀬戸IV期古段階

次いで灰釉の平碗が多く出土しています。

また、平成9年度の調査では、古瀬戸の燭台や香炉といった寺院に関する製品が多く出土しており、遺跡の中に寺院があった可能性があります。



燭台 古瀬戸IV期古段階

中国の製品

中条遺跡では、中世全体を通して、中国製の陶器、磁器も多数出土しています。

中世前半では、青磁や白磁、中世後半では染付皿が出土しています。



中国製品 青磁の碗

下記の中国製の染付皿は、景徳鎮窯で焼かれ、内面には玉取獅子けい とくちん たまどりが描かれています。



中国製品 染付皿

まとめ

中世全体を通して、集落が栄えていたことがうかがえますが、中世前半から後半にかけて有力者(領主)が、古瀬戸の高級品や中国製品などの貿易陶磁を好んで入手していたことが出土した陶磁器から分かります。

中条遺跡は現在遺跡の38%しか発掘調査を行っていないので、もしかしたらまだ発掘していない地下にたくさん的高级品が眠っているかもしれませんね。

(学芸員 河野 あすか)

REPORT

展示報告

企画展「はこぶものたち—運搬事始メ—」

2019年7月23日(火)～9月1日(日)

小中学校の夏休み期間中、「はこぶものたち」と題して、車や鉄道などの交通・物流の展示を行いました。展示は「ひとをはこぶ」と「ものをはこぶ」の2つのテーマに分け、身近な自動車や鉄道の登場といった技術革新の側面と、郵便や物流のような制度の側面について、パネルや模型をもとに紹介しました。また「木製1分の1カローラ」を特別展示し、このカローラを利用したイベント「レキハクイズ」や、奈良時代から活用されていた"はこぶもの"である風呂敷の講習会などを開催しました。"はこぶ"ことをより身近に感じていただけたと思います。

本展示は4,500人を超える多くの方に来場いただきました。ありがとうございました。



展示の様子



関連イベント「ふろしき講習会」

Column

コラム

收藏品よもやま話

常設のケースから



展示の様子



歌川広重「東海道五十三次之内 池鯉鮒」

常設のケースから——今回は歴史博物館の常設展示について紹介します。

ここ、歴史博物館の「歴史ひろば」では、刈谷の歴史について、縄文・近世・近代の3つの時代に焦点を当てて紹介しています。

今回取り上げるのは、10月8日に展示替えを行った近世の刈谷の村に関する部分。何気なく眺めていると、「東海道五十三次之内池鯉鮒」の文字が。現在では市域の異なる池鯉鮒宿ですが、江戸時代を通して刈谷藩領であったため、ここで展示しています。

この作品の中では、薫風吹き渡る野原に、たくさんの馬が並べられています。のどかな旅の情景を思い起こすように、広く遠い視野で場面が捉えられています。作者はかの有名な浮世絵師、歌川広重。「東海道五十三次之内」は出版当初から人気のシリーズでした。

次回は別の視点から。

NEXT Exhibition 次回展示

刈谷の近代化と豊田佐吉・喜一郎

－準備は出来たカリヤは邁進します－ 2019.12.14 (土) ～ 2020.2.9 (日)



刈谷が産業のまちとして発展した契機は、豊田佐吉らによる豊田紡織株式会社の刈谷試験工場設置に求めることができます。本展では、豊田佐吉と長男・喜一郎の足跡をたどり、「刈谷がどのように近代化を成し遂げたか」について紹介します。

主な出品資料

- ・無停止^{ひがえ}杼換式豊田自動織機 (G型)
(トヨタ産業技術記念館蔵)
- ・豊田式木製人力織機特許証
(株式会社豊田自動織機蔵)
- ・革製手提げかばん (豊田佐吉使用)
(トヨタ産業技術記念館蔵)
- ・A1型試作乗用車 (5分の1スケール)
(トヨタ産業技術記念館蔵)

※記載内容は予告なく変更することがあります。
詳細・最新情報は当館ホームページをご覧ください。

INFORMATION ご案内

開館日カレンダー

2019
12月

日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30	31					

2020
1月

日	月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	31		

2月

日	月	火	水	木	金	土	日
						1	
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	

3月

日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30	31					

□ …開館日 ■ …休館日 □ …企画展開催日

交通案内

鉄道

JR東海道本線 逢妻駅
名鉄三河線 刈谷市駅 から
徒歩約15分

バス

刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」
東刈谷・逢妻線 (黄色)
「刈谷市体育館」下車 徒歩約3分

自動車

伊勢湾岸自動車道
名古屋南IC または豊田南IC から
約20分

刈谷市歴史博物館 NEWS とは？

企画展や文化財を中心に、歴史について考えるきっかけづくりとして発行する機関紙です。展示だけでは伝えきれないことや、日々の調査研究から見えてきたことを、本紙を通じて発信しています。

編集後記

編集・発行

刈谷市歴史博物館 NEWS Vol.02 をお届けします。秋の終わりとともに、秋季の企画展が無事に終了しました。次は刈谷の近代化に注目した企画展、どんなカラーに仕上がるのでしょうか。

それでは、Vol.03 もよろしくお祈いします。(永井)

刈谷市歴史博物館

KARIYA city Museum of History

〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1

TEL.0566-63-6100 FAX.0566-63-6108

URL : <https://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/>